

2025年11月04日 読売西部 朝刊 大分 12版 19頁

JFL昇格へ優勝狙う

日本フットボールリーグ（JFL）昇格を目指す、実業団サッカーチーム「ジェイリースFC」（大分市）が9月上旬、九州リーグで初優勝し、今月7日に開幕する「全国地域サッカーチャンピオンズリーグ」へ昇格を懸けて出場する。クラブを運営するジェイリースフットボールクラブ会長の中島士さん（43）にこれまでのクラブの歩みや昇格への意気込みを聞いた。（森咲野花）

——2018年に創部した。きつかけは。

「（家賃保証などを手がける）ジェイリース（大分市）の一部分としてスタートした。ジェイリースグループは」



九州リーグで優勝した際に、選手たちがサインしたパネルを手にする中島さん



強い。サッカーが盛んな大分で企業として恩返しできることを考えたときに、実業団チームを作り、スポーツを通じてたまちづくりや地域貢献に取り組もうと思った」

「県社会人サッカーリーグ3部に参入、順調に昇格し、21年から九州リーグに所属している。今年は悲願のリーグ優勝を果たした。10月、滋賀

なかしま・つち 大分市出身。中央大経済学部卒。ジェイリースでは2023年から社長。名前は、祖父が営んでいた土木業にちなんでおり、地に根を張ってしっかりと育ててほしいという願いが込められている。大学4年間はボディビルに打ち込んだ。家族は妻と2女。大分市で暮らす。

ジェイリースフットボールクラブ会長 中島 士さん 43

県で行われた国民スポーツ大会では、県代表として成年男子の部に出場し、準優勝した

——好調の要因は。

「少しずつ少しずつファンが広がり、多くの熱い声援をもらえるようになったところだと思う。また、今年は12人の選手が新加入したことで、経験豊富なベテランからスタミナのある若手まで幅広い年代でチームが構成できたことも大きい」

——選手の特長は。

「大分トリニータで活躍した松本怜選手（37）をはじめ、31人が所属。大分でキャリアを終えたいという思いで加入する選手も多く、大分のサッカーチームゆかりの選手やコーチは10人いる。主に午前中はサッカーの練習、午後はジェイリースや他の企業などで仕事をするという日々を送っている」

——どのような地域貢献活動をしている。

「県内の保育園や小学校などでのサッカー教室や高齢者施設でのボールを使った交流、別府市の海岸の清掃活動など。昨年は計約90回、ボラ

ンティア活動を行った」

——JFL昇格に向けた思いは。

「7日に開幕する『全国地域サッカーチャンピオンズリーグ』で優勝すれば自動昇格する。準優勝の場合はJFLの下位チームとの入れ替え戦に臨む。チャンピオンズリーグで優勝し、堂々と昇格したい」

——今後の展望を。

「今年4月、子会社『ジェイリースフットボールクラブ』として法人化した。事業拡大や経営の透明化、収益化を図り、意思決定のスピード、チームの経営そのもののスピード感を上げていく」

「私たちが目指しているのは（JFLのさらに上に位置づけられる）Jリーグではなく、『JFLで活躍する大分の実業団チーム』。サッカーは他のスポーツに比べ、選手生命が短いとされる。大分でも長くサッカーをできる環境を守りたい。選手のセカンドキャリア、サードキャリアを支えるとともに、地域貢献活動にも力を入れることで、ふたつに恩返ししたい」